

ヘーベル・ベースバック・アスロック・イーゼット・フレームキット
販売施工 名取屋興産株式会社
TEL 042 (341) 8811 FAX 042 (345) 1002

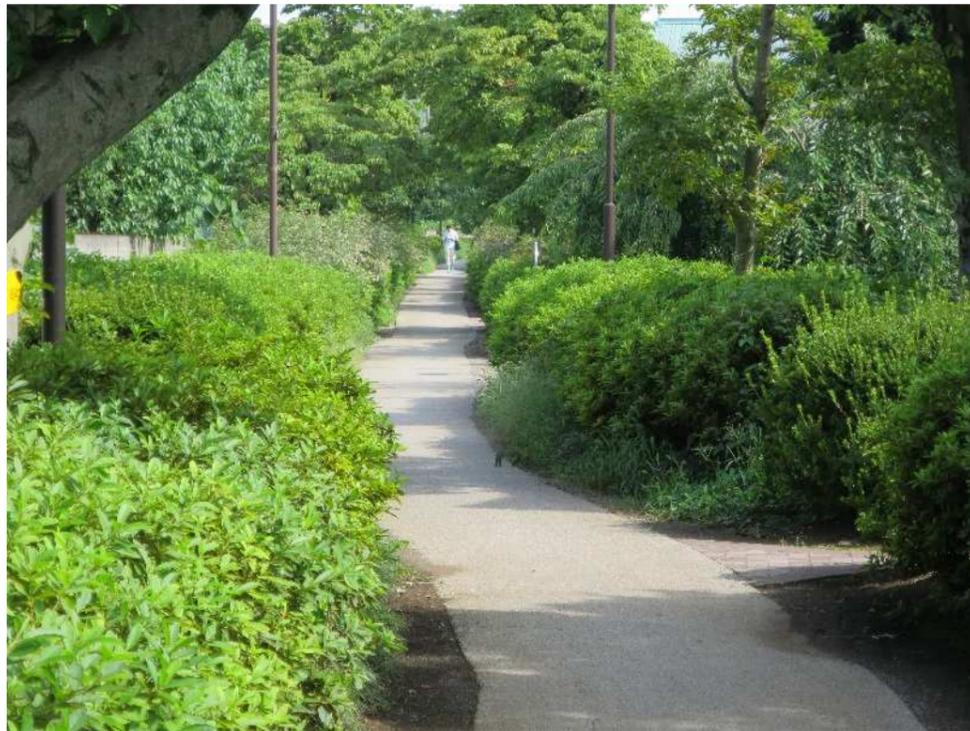
豊かな空間を創る技術と信頼のパートナー
Construction
KIKUCHI
菊池建設株式会社
〒188-0001 東京都西東京市谷戸町3-17-6
TEL:042-422-4535 FAX:042-421-4600
http://www.kikuchikensetsu.co.jp

名も知れぬ道筋からのささやきが聞こえる(3)

川田 伸紘

一級建築士事務所(株)K設計工房 武蔵野市

西窪村もこれに倣っているようだが、その点では関前や境の村はそうした成立の仕方とはかなり異なっていると見られている。両村とも開拓に従事した(させられた)のはももとの農民であり、耕作の原理原則や必要不可欠な自然条件に十分に通じていた。吉祥寺村では、たとえ緩やかな傾斜の武蔵野台地上の耕作とは言え、杓子定規に自然的勾配や水利も考えずに、外形的には整然たる区画を敷いて、農事に経験の無い町人をして耕作せしめたと言うことだが、これに対してたとえば境村ではそのような幾何学的機械的(地形的の形質を無視した)地割りは認め難い。大局的には北から南に、西から東へと向かう非常に緩やかな傾斜地に、起伏などを微妙に配慮しながら耕地を新たに作りだしたのと思われる。後に許された水利となる玉川上水は境村の北辺を流れ、そこから分水した境村分水^(※4)の網の目がその様子を雄弁に物語っているように思われる。



花の通学路(境村分水跡地利用)

眼前に認めることができるかつての境村の景観骨格の成立は上のおりである。その骨組みと積み重ねの上に今の境、境南、桜堤のまちまちは形成されている。われわれが日ごろ何気なく歩く小さな道筋、路地や暗渠となった小道の一つ一つに、その当時からの人々の営みが語る物語には心静かに耳を傾けていきたいと思う。

※1:武蔵野三大遊水池とされた井の頭池、善福寺池、石神井池もしばらく前にすべて枯渇してしまい、現在の水面は人工のものである。
※2:三鷹市内の牟礼地域や杉並区の善福寺池(下池)周辺などの低湿地では、近年まで水田耕作が行われていた。
※3:この地域には品川用水といって境浄水場南中央部附近の玉川上水に設けた取り入れ口から分岐した品川方面に向けた用水もあったが、境村分水とは異なる。
※4:境村分水はいまではその俵を殆ど残していない。花の通学路と呼ばれる緑道の僅かにその一部が残されている。

季刊 広報 ほくぶ 皐月号
第18号(5月発行)

発行:(社)東京都建築士事務所協会 北部支部
住所:〒188-0011 西東京市田無本町4-9-1
測量センター内
メールアドレス: info@taaf-hokubu.jp.org

北部支部 桜祭り「よろず相談会」および耐震診断実務講習会を開催

＝市民の意識と診断、施工側の意識を押し量る＝

4月1日(日)は武蔵野市の桜まつりでテントや軸組の小屋を設置して毎月行われるよろず相談会出張版を行った。内容は耐震への意識を押し量るためのアンケートが中心になるが、耐震模型も活用している。毎回スローハウスの体験コーナーが欠かせないが、今年はこの他に「角材釘打ち大会」と銘打っての楽しい体験をしてもらった。テントや軸組コーナーには延べ300人が集まりスタッフは汗を流しながら対応におわれた。

但し反省点としては、「実務につなげる為に呼びかけた後の対応と工夫が必要である」と感じた。

4月20日(金)には、北部支部の耐震診断委員会が主催して、耐震診断実務講習会を武蔵野市役所の会議室にて開催した。講習会には北部支部の会員、建設業、さらに武蔵野市役所の市民の窓口から来られた設計者または業者などを含め、延べ40名が受講した。

昨今、予測不能な大きな地震が起きているが、建築、建設業界の勉強する意識と技術向上への努力が欠かせない。講義は「耐震診断」「耐震補強設計」「改修工事の要点」と題した3部門で木造が中心となったが、その他に講師として武蔵野市都市整備部住宅対策課を招いて、耐震化促進事業の話をして戴いた。また大きな地震が起こる前に、耐震比率を上げ、行政から助成金がでている間に対策を取らなくてはならない。待ったなしなのだ。それだけに支部の勉強会の回数を増やし、確実な耐震技術を学ぶことが必要だ。支部の耐震委員会は次回ではもう少し踏み込んだ耐震技術の講習会を行うと述べていた。



支部行事

- 2月21日(水) 本部新年会・懇親会/明治記念館
- 3月2日(金) 第6ブロック会議/西多摩支部 燈々庵
- 3月28日(水) 武蔵野市 第二次沿道耐震化事業第3回会議
同 支部役員会/田無測量技術センター
- 4月1日(日) 武蔵野市 桜まつりに相談員派遣
- 4月6日(金) 支部ゴルフ 石坂ゴルフクラブ 優勝:田中
- 4月18日(水) 支部役員会/田無測量技術センター
- 4月20日(金) 耐震診断実務講習会/武蔵野市役所会議室

*{今まで会員、賛助の方々に「私の街」を紹介して戴いています。今回は武蔵野市を紹介して下さった記事を2P~4Pにかけて掲載させていただきました。}

● 見玉コンクリート工業株式会社

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-9-9
http://www.kodama-conc.jp

YKK
ap

アルミニウム製建具、鋼製建具
YKK AP株式会社
東京ビル建材統括支店立川支店
〒190-0012 東京都立川市曙町1-27-10
読売立川ビル6F
TEL:042-521-1020

名も知れぬ道筋からのささやきが聞こえる(1)

川田 伸紘

一級建築士事務所(株)K設計工房 武蔵野市

武蔵野(市)の地勢はいかに平坦そのものであるか！ 無論、山はない。川もなければ谷も崖もない。水の流れなどの水辺が無いわけではないが、玉川上水やその分流の千川上水の流れの外にはない。厳密には武蔵野市内とはいえない。難い、井の頭公園の井の頭池^(※1)とそこを源流とする神田川くらいのものである。それらを除けば殆どが人工のものである。そして人工の典型として、通例は見学も許されない境浄水場も市内の水といえば貴重な水面であろう。

地盤地質はおおむね良好といわれ、大きな自然災害、地震対策でもってこいといわれる。前市長も述べていたが、平坦な地勢は自転車での移動には最適でもある。

しかしなぜだろう、自然的変化と魅力に乏しいこの地が、住みたいまちナンバーワンとかそのベストスリーにいつも入ってきたのはどうしてなのかと考える次第である。そして住みたいまちナンバーワンであるにも関わらず、都内第3位の高空き家率、23区外ではトップを誇っている(!)のはなぜなのか、という皮肉な指摘もあり、市民の中から“住んでよかったまち、住み続けたいまち、ナンバーワン”を目指そうという機運がでてくるのも自然の成り行きである。

さて、今の武蔵野市、現在の姿の骨格は江戸時代につくられた。そのきっかけはとなんとといっても玉川上水と明暦の大火といわれている。またここでは触れないが、関東大震災後の多くの人々の移入や軍都化と言われたほどに東洋一を誇った中島飛行機の建設やそれによる本土初めてとされる空襲なども忘れてはならない。

しかし、何とんでも決定的な背景としては、ほぼ関東一円を直轄地として江戸に幕府を開いた徳川政権の経済政策、封建的農民支配体制の推進と増強拡充志向の流れである。

武蔵野台地のほぼ中央部、やや南よりに位置するこの地の本格的な開発は江戸時代の初期ころからにさかのぼるようだ。それに先駆けて三鷹市内の牟礼地域や小平市内の小川地域の開発は始まっていた。いまでも田無と聞くと田圃がないから田無というのだという説明が普通に通っている。それでは幕府支配下にあった武蔵野台地で水田耕作が行われていたところはどこか。



少なくとも今の武蔵野市域となった範囲内では聞いたことが無い^(※2)。それはなぜか、とかねてより疑問に思ってきた。幕府の進める支配体制と経済基盤の拡充からすれば、同じ面積であれば畑より水田のほうがより収量が高く効率的である。無人無住と言われた武蔵ヶ野に街道を通し、路上集落を築いても、(当時は)荒涼たる原野に水利は望めなかったであろう。その一方、江戸の町の拡大は進み、人口も増える。何よりも水が不足するので、小石川上水、神田上水でまかないながらもやがては玉川上水を開削した。

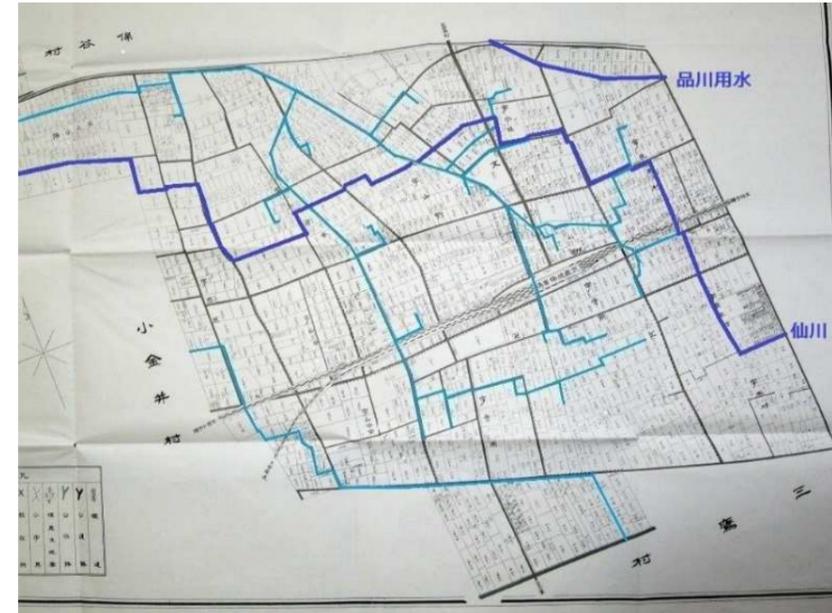
武蔵野市域における「地引絵図」1875(明治8)年 武蔵野ふるさと歴史館作成

名も知れぬ道筋からのささやきが聞こえる(2)

川田 伸紘

一級建築士事務所(株)K設計工房 武蔵野市

これらは上水であるから用水と呼ばれた農耕の灌漑のために用いることは許されず、逆に流域の村々人々はその維持管理の賦役を課されたと伝えられているくらいである。つまり武蔵野市域の村々(境、関前、西窪、吉祥寺、井口新田)のみならず、その流域となった村落と人々は上水の水を用いることは許されなかった(時期がある)のである。江戸市中にはその後もいくつもの上水が通されたが、やがて井戸掘り技術なども進化して、一定の上水量が余剰となって初めて武蔵野の村々にもその幾分かの使用が許される時期が到来した。その典型的なものとして境村分水をみることができると思う^(※3)。



1924(大正14)年境村分水全図

武蔵野台地に水田耕作が発展しなかった理由について、そのもっとも大きな要因として、武蔵野台地の広大な面積(約840km²)に対して、多摩川の流量量が足りあわず不足しているからであるという説がある。幕府もこれにしたがって水田耕作を許さず、畑地の開墾に専念させたというのである。これはいかにももっともな説であり、玉川上水の水利制限の政策とも合致していると言える。

境分水のことに触れたが、武蔵野市域の元となった旧武蔵野村を形づくったのは、西から境、関前、井口新田(飛地)、西窪、吉祥寺のそれぞれの村々である。

吉祥寺は、1965(昭和40)年ころから吉祥寺駅周辺計画に基づいて急速に発展して、今の「住みたい街ナンバーワン」の基礎をつくったとされ、昨年末放映のNHK「プラタモリ」でも取り上げられたくらいに人気があるが、そのまちなみの基礎は五日市街道・吉祥寺通りを基軸とする江戸初期における短冊状の地割りである。

明暦の大火(1657年1月18日)で焼け出された人々(主に町人)を、江戸市中の吉祥寺村(現在の水道橋駅付近)の今で言う区画整理(武家屋敷の防火用地確保が主眼)に当たって上地を広く行ない、その結果住む場所を失ったそれらの人々を今の五日市街道沿いなどに割り当てて移住させ、合わせて幕府の農耕収入増大、財政の拡充も図ったというのである。それ以前からの住民にも協働させて30数家分に土地を分ち与えたが、街道を挟んでのそのような地割り法は路村集落の形成と呼ばれ、小川村(小平)にも、連雀村(三鷹)にも見受けられる。つまり、街道に沿って均等(吉祥寺村の場合は間口20間)に、奥行きも出来るだけ差が少ないように農地を割り当てたと伝えられている。そしてこういう仕方は均分主義といわれ、古代律令社会における公地公民口分田法に似通っているとも受け取れるが、近世初期の都市計画の好事例とされているようだ。しかしながら、農耕経験がまったく無いに等しい町人に農地を強制的に割り当てて縛り付け年貢徴収を目指したという点では、過酷な政策であったというべきであり、いまの吉祥寺の隆盛からは想像もつかないことである。



東京都東村山市秋津町3-50-3
042(393)1177

生コン販売・ALC(ｸﾘｯﾌﾟ)・耐火被覆他

日興産業株式会社

TEL 042-342-0044 FAX 345-9576

自動ドア・ステンレス建具



西東京支店

〒186-0001 国立市北1-4-3
TEL : 042-575-1725

<http://www.nabcosystem.co.jp>

2011年4月1日 株式会社LIXILが新たに動き出します。



株式会社LIXIL 東京西支店

東京都昭島市田中町610-3

<http://www.lixil.co.jp>